



アーシャ事務局よりお知らせ

アーシャ新事務所紹介

2015年6月15日、当会は新たな事務所への移転を無事完了することができました。10周年記念事業として掲げられたこの事務所移転のため、多くの皆様にご支援いただき、寄付総額は1,588,600円となりました。ご支援・ご協力くださいました皆様に、心より感謝申し上げます。

前の事務所では、1K（6畳）のアパートにて執務しておりましたが、新しい事務所は4DKの一戸建てとなりました。1階には事務室、ミーティングスペース、キッチン、バス・トイレ・洗面台があり、2階には和室が2部屋あります。さっそく、今まで公共施設で行っていた理事会や臨時総会、現地スタッフとのミーティングや各種打ち合わせ、現地スタッフの宿泊

など、新しい事務所を活用した活動を進めております。お近くにお越しの際は、ぜひ新しい事務所をご訪問ください。お待ちしております。



新事務所外観



事務室とミーティングルーム



理事会開催の様子

2016年3月スタディツアー参加者募集中!!!

日程: 2016年3月4日より約10日間
参加費: 220,000円(愛農会員・アーシャ会員・学生・リピーター割引あり、成田発着)
 上記参加費の他に、燃油特別付加運賃、空港税、航空保険料、海外保険料、インドビザ申請料金等が必要となります。
 *諸事情により日程や参加費が変わることがあります

滞在場所: デリー、バラナシ、アーグラなどの観光地、継続教育学部が遂行する農村開発プロジェクト実施地(アラハバード農村)
募集予定人数: 10名程度(最少催行人数5名)

お問い合わせ・お申込み: **株式会社マイチケット**
 Tel/06-4869-3444 E-mail/ info@myticket.jp
 または愛農会中西泉 (Tel/0595-52-0109 Fax/ 0595-52-0108) が受け付けています!

アーシャが支援している継続教育学部では、学生・現地インターン・ボランティアを募集しています!

- ① **学生**…持続可能な農業・農村開発コース(SCSAD)で、有機農業、食品加工、マーケティング、開発問題、農村調査などを現場で実践を通して学ぶ。
 - ◇ **集中語学研修(英語): 2016年5月初旬から2か月(英語力が充分と思われる方は免除されます)**
 - ◇ **本コース: 2016年7月1日から2017年3月下旬まで**集中語学研修費用は100,000円(2か月)、本コース学費は500,000円です。学費には、寮費、一日3食分の食費、授業料、入学金、空港からの送迎、インド国内研修旅行費用などが含まれます。
 - ② **インターン**…期間は6か月~1年未満、寮費/食費支給。スタッフの下、責任領域をある程度持つ。
 - ③ **ボランティア**…期間は4週間~6か月未満、食費/寮費1日400ルピー(約800円)、スタッフの補佐。
- 日本とインド間の渡航費、ビザ申請費、海外旅行保険は自己負担となります。お申込み・お問い合わせは、recruitment@ashaasia.org までお願いいたします。

●会費・寄付ありがとうございました。2015.8.13~11.13 ○は新入会員。順不同、敬称略
 誤字・記載漏れがございましたらご面倒でも事務局までご連絡下さい。よろしく願いいたします。

- 個人正会員
- 一般寄付
- 10周年記念寄付
- 指定寄付
- 物品寄付
- 会費 個人正会員 5,000円 団体正会員 20,000円 終身個人正会員 50,000円 (正会員は総会議決権があります)
 個人賛助会員 3,000円 団体賛助会員 10,000円 終身個人賛助会員 30,000円
- 郵便振替 加入者名: アーシャ=アジアの農民と歩む会 口座番号: 00160-0-315147

特定非営利活動法人 アーシャ=アジアの農民と歩む会 ☆この会報はインド・アラハバードで製作・印刷されています☆

<事務局・交流センター> 〒329-2703 栃木県那須塩原市槻沢83-17 TEL/FAX: 0287-47-7840
事務局 丹羽 寿美 E-MAIL: info.jp@ashaasia.org
 アーシャ=アジアの農民と歩む会ホームページ: <http://www.ashaasia.org> Facebook、twitterも随時更新中!



草の根の平和貢献

山下 逸喜
 本会・理事

世界中で政治家や国際機関リーダーの「平和のため」との発言が報じられない日がないほどです。それだけ平和でない状況が世界に存在するようです。誰も異議を唱えるはずのない「平和のため」をあえて口にしなければ

ならない理由はなんだろうか。叫んでいる平和とは一体だれのための平和なのだろうか。思わずそんなことを考えてしまいます。平和を体現すべき国際連合が、大国の思惑で肝心な時に機能しない現実。軍備増強に邁進している大国が平和を口にする時に感じる違和感。平和は口にするまでもなく誰しもが希求している普遍的現実です。だとすれば、平和のた



デモンストレーションを兼ねて種籾の消毒を温湯浸漬法で行うアラハバード有機農業組合栽培農家。継続教育学部で研修を受けた組合農家リーダーらが実施した。於・アラハバード県カリヤン村。

めなどと考える間もなくヒトとして自らの想いに駆られて起こす行動の結果がその原点であるはず。地政学的な争いには、必ず民族や国家間、更には国の枠を超えてグローバルに影響力を増している多国籍企業や政治勢力などの利害が絡んでいます。最近耳にする多くは、こ

れら当事者が声高に叫ぶ平和のためのものに思えてなりません。

アーシャは、アラハバード近郊のインドの貧しい農村の大地に根を下ろしています。そこで現実に生活を営んでいる農民や貧しい村の女性や子供たちとともに存在する組織です。そこでのアーシャの活動は、たとえ村人それぞれの人生や小さな村の将来に変化をもたらすことが出来たとしても、世界平和のためなどと言うには余りにも小さなものかもしれません。しかし、世界中の人だれしもが何気なく送っている穏やかな日常生活からしか平

和はやってこないというのが実感です。世界に向かって平和を唱える国家指導者のもと、その国の民が平和を奪われ塗炭の苦しみのなかにある事例を数多く私たちは知っています。インドの村にあって共にコメ作りや人づくりに汗を流すアーシャは、平和の原点にいます。食と教育は平和の根幹です。アーシャの働きが少しでも大きくなれば、それだけ平和の原点の裾野が広がるはず。声高に叫ばれる平和よりも、小さくても確実な平和への一歩です。アラハバードからインド各地や隣国ミャンマーへ、そしてこの日本にまで平和のタネを静かに撒き続ける働きに少しでも加わることができればと願っています。